【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

未来への投資

熊本県立宇土中学校
三年　高塚　悠奈

学校で変な下敷きを貰った。どうやら、法人会から頂いたものらしい。その下敷きには国の一般会計歳出額の内訳のグラフや税金の使われ方について書かれていた。正直読んでも面白くなさそうだと思った。果たして誰がこれを読むのだろうとも思った。しかし、ちょうど暇を持て余していたので、私はそれを読むことにした。

始めはつまらなそうだと小馬鹿にしていたが、読んでみると案外面白かった。中でも一番面白かったのは「身近な財政支出」という項目だ。そこには目を疑うようなことが書かれていた。なんと、公立学校に通う中学生一人当たりには年間約百五万二千円もの税金がかかっているのだそうだ。私はこの事実を知りとても驚いたが、同時に何にその百五万円が使われているのかが気になった。しかし、考えずとも教室を見回した瞬間にその答えが分かったような気がした。

「あっ全部だ。身の周りのすべてのものに税金がかかっているんだ。」

私はそう実感した。

中学生である私たちの身の回りのものは本当に何から何まで税金で賄われている。教科書代から水道代、電気代と本当に身の回りのすべてと言っても過言ではないだろう。

本当に税の恩恵を一番受けているのは、私たち学生ではないだろうか。私は下敷きを読んでいてつくづくそう感じた。しかし、私は一つ疑問を抱いた。なぜ大人たちは私たちに無償で教科書などを提供してくれるのだろうと。しかし、その答えは教科書の裏に書かれていた。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

つまり、私たちは期待されているのだ。だから八百円もする教科書も、月に二十万円以上かかる電気代も税金で賄われているのだ。本当にありがたく思う。大人はこれからの日本を担う私たちに投資をしているのだ。だから私たちもその期待に沿えるように、未来を切り拓いていかなくてはならないと思う。

私たちは今、投資されている側である。しかし、いつかは私たちも投資する側になるだろう。そのときは、きっちりと納税をして受けた恩恵の百パーセント以上を次の世代へと託していきたい。教育のために使われる税金には未来をより良いものにする力があると思う。だから、私は明るい未来のために大人になったらきちんと納税をしたいと思う。